

第7章 計画課題の整理

1 課題整理へ向けた視点

ここでは、前章までの本市の現状等を踏まえ、後述の分野別の主要課題との結びつきを整理します。なお、課題整理へ向けての視点に記載している凡例は、次節の主要課題における区分を示すものです。

区分	現状	課題整理へ向けての視点
松浦市の現状	自然条件	北松浦半島の本土部と、その沖に浮かぶ福島、鷹島、黒島、青島、飛島などの島々から構成され、地域により生活圏域が異なる。 都市防災
		海と山に囲まれた豊かな自然を有しており、一部は玄海国定公園、北松県立公園に指定されている。 都市景観
	人口・世帯	人口は昭和 35（1960）年以降減少傾向にあり、今後も減少が予測される。 土地利用
		少子高齢化が進行しており、独居高齢者世帯も増加傾向にある。 地域・都市交通
	産業	全国や県と比較して、1次産業、2次産業の割合が高い。 土地利用
		従業者数、事業所数はともに平成 28（2016）年まで減少傾向にあったが、令和 3（2021）年には増加となっている。 土地利用 都市施設
	土地利用	用途地域面積は拡大しているが、人口は減少傾向にあり、用途地域内の人口密度は低下している。 土地利用
		松浦都市計画区域の準工業地域全域は、特別用途地区（大規模集客施設制限地区）に指定されている。 他地域においても、無秩序な開発を防ぎ、効率的で効果のある土地利用の整序を進め、計画的に土地利用をコントロールする規制・誘導方策が必要。 土地利用
		臨港地区は、調川港（23.5ha）、松浦港（9.6ha）が整備されている。
	自然公園	自然公園法に基づく公園として、玄海国定公園と北松県立公園の2つが指定されている。 都市環境
	都市施設	都市公園は、6か所（23.32ha）整備されており、一人当たりの緑地面積は16.46㎡/人となっている。 都市施設

区分		現状	課題整理へ向けての視点
松浦市の現状	都市施設	都市計画道路は、自動車専用道路2路線と、幹線道路9路線が整備されている。	都市の核をつなぐ交通ネットワークを形成し、沿道の土地利用を推進。 地域・都市交通
	景観	伊万里湾を取り囲む複雑で美しい海岸線と背景となる山なみで形作られている。	松浦らしい景観を守り、活かしていくための取組を推進。 都市景観
		特に海岸線はリアス式海岸となっており、伊万里湾に浮かぶ島々の眺望とともに、松浦市ならではの景観である。	リアス式海岸の美しい水辺空間を活かし、親水空間の創出や自然環境との共生を図ることが必要。 都市景観 都市環境
	文化財等	国史跡鷹島神崎遺跡があり、これまで文献や絵画などでしか知ることのできなかった蒙古襲来の様相を明らかにする、極めて重要な遺跡として評価されている。	地域の資源を活用した観光振興と、計画的な土地利用が必要。 土地利用 都市景観
		松浦党梶谷城跡など、多数の指定文化財があり、地域の歴史的な資源となっている。	
上位・関連計画	「長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025」、「松浦都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針【長崎県策定】」、「松浦市総合計画」		本計画の上位計画として、これらの計画との整合性を確保することが必要。
	「松浦市地域防災計画」		都市防災の方向性を決める上で整合性を確保する。 都市防災
	「松浦市地域公共交通計画」		都市交通の方向性を決める上で整合性を確保する。 地域・都市交通
社会潮流	「都市構造」、「都市居住」、「都市施設」、「都市空間」、「都市防災」、「都市経営」の視点。		全国や本市を取り巻く社会情勢や、国の政策、法改正等の社会潮流を踏まえ、本市のまちづくりの課題を定める。
	デジタル化が近年急速に進展しており、国際社会や企業活動、一人ひとりのライフスタイルを変化させている。		国土交通白書にもとづいた、デジタル化の視点を踏まえ、本市のまちづくりの方向性を定める。
住民の意向	公園や広場の整備は、今ある資源を有効活用すべきという声が多い。		市民のニーズを踏まえたまちづくりが必要。 都市施設 地域・都市交通 都市防災
	交通については、日常生活を支える公共交通の充実を望む声が多い。		
	災害について、土砂災害対策の推進を望む声が多い。		

2 現状・将来見通し等を踏まえた本市の主要課題

ここでは、前述の課題整理へ向けた視点を踏まえ、「土地利用」、「地域・都市交通」、「都市施設」、「都市環境」、「都市景観」、「都市防災」の6つの分野別主要課題を以下に整理します。

分類	都市整備に向けた主要課題
土地利用	① 本市には美しい海や豊かな自然環境、歴史的な観光資源があり、これらの地域資源を活用した観光地や交流施設などと調和した都市的土地利用の整備が必要。 ② 人口減少や少子高齢化が進行しており、生産年齢人口の確保や、人口流出への対策が必要。 ③ 人口の減少による、空き家対策などを含めた都市のスポンジ化対策が必要。 ④ 人口流出による人口の社会減少への歯止めをかけるための受け皿となる住環境整備や、就業先の確保等による安定した人口の社会移動増加に向けた都市づくりが必要。 ⑤ 都市の核をつなぐ交通ネットワークを整備し、将来的な展望の下で、そこに住む地域の人口構造などにも考慮した土地利用対策が必要。 ⑥ 人口減少や高齢化、生産年齢人口の減少により、生活を支援する公益的な機能や商業・サービス機能の低下が懸念される。 ⑦ 都市機能の集約や都市機能へのアクセス性、地域間の連携を高める新たな都市構造の検討が必要。 ⑧ 無秩序な開発を防ぎ、効率的で効果のある土地利用の整序に向け、計画的に土地利用をコントロールするきめ細かな規制・誘導方策が必要。
地域・都市交通	① エネルギー供給基地としてサプライチェーンの災害対応能力に向けた交通インフラの整備が必要。 ② 多核型都市構造をつなぐ、交通ネットワークの形成が必要。 ③ 子どもや高齢者等の交通弱者に対応した公共交通機関の充実が必要。

分類	都市整備に向けた主要課題
都市施設	① 高齢世帯の増加に対する新たな社会インフラとしての医療、福祉、公共交通などの在り方の見直しが必要。 ② 公園や緑地等の緑化空間と周辺環境に配慮した整備が必要。 ③ 地球温暖化防止等の対策の一環として、住民の意見を取り入れながら、公園の機能向上・再編をしていくことが必要。
都市環境	① 伊万里湾に面するリアス式海岸の美しい水辺空間を活かし、都市づくりにおける親水空間の創造や自然環境との共生を図ることが必要。 ② 今後のまちづくりとして、市民、事業者、行政、NPO、ボランティア組織など多様な主体の協働による“新たな公”の活動が高まっているため、人材育成や活躍の場、情報提供などの支援が必要。 ③ 今後の投資的経費の制約が高まる中でのインフラ老朽化対策など、公共投資の選択と集中が必要。
都市景観	① 松浦市景観計画に基づき、松浦らしい景観を守り、活かすための取組を進め、景観の守り手、活かし手を支援し育てていくことが必要。 ② 市街地における商店街などの魅力と活気のある市街地景観を再生することが必要。
都市防災	① 地震や津波、豪雨などの自然災害、原子力災害への対策を視野に入れた、安全性の確保や防災施設の配置、及び土地利用の整序が必要。 ② 高齢者や障がい者等に配慮した避難所の整備や避難路のバリアフリー化など、災害時における災害弱者等に配慮した都市づくりが必要。